

大熊靖夫上席審査官（前ジェットロ・バンコク知財部長）の講演、品川陽子先生（公認会計士）の講演

- ATIS 11月度例会 -

2014年11月19日、川崎市産業振興会館で、11月度例会が開催されました。

代表幹事からの活動報告に続いて、2つの講演がありました。

大熊靖夫上席審査官『東南アジアの知財概況』

東南アジアの状況を、わかりやすく丁寧に解説していただきました。

「東南アジアの経済概況」の欄で、東南アジアといっても、GDPに大差があり、豊かな国ととても貧しい国があること。人口も2億3千万人の国から40万人と大きな差があること。人口構成もタイでは高齢化社会になっているのに、フィリピンはピラミッド型で「人口ボーナス」の恩恵を受けやすい国であること。などなど、千差万別であることを知ります。

「東南アジアの知財概況」では、知財活動が未発達で、全文公報が公開されない国もあること、特許庁のデータベースが不十分なものが多いこと、一方で商標の出願件数が多いことなどを説明していただきました。

「新興国・途上国における知財リスク」では、情報漏洩、契約不備、他社権利侵害、法令違反、模倣品などのリスクを説明していただき、「東南アジア各国の知財概況」では、各国の知財トピックスを紹介していただきました。

漠然としていた東南アジアが、クリアに見えてきた講演でした。大熊審査官、ありがとうございました。



品川陽子先生『会計士から見た子会社の内部監査』

不正の事例を、たくさん解説していただきました。

「オリンパス事件」で、「粉飾決算」がどのようにして行われたか。「SIEMENS社事件」で、「汚職」のメカニズムはどうであったか。「ネッツエスアイ東洋事件」で横領のスキームはどのようにしておこなわれたか。わかりやすく解説していただきました。とても興味深い反面、身につまされる事件でした。



そして、「内部監査」とはなにかを教えてくださいました。「内部監査の区分」「内部統制評価」「整備状況評価の手法」をご説明いただき、内部監査がどのように変わってきたかを学ぶことができました。

「内部監査のレベルと負担」のところでは、現実的な問題が語られました。「内部監査が、どこまで期待されているのか？どこまで目指すのか？」という問題です。なかなか難しい問題でした。

最後に「子会社における内部監査の問題点」を指摘していただきました。ズバリ、そのとおりでした。

会計士の業務内容がよくわかりました。品川先生、ありがとうございました。

講演終了後、2人の講師を交えて、懇親会が行われました。いつものように、大いに盛り上がりました。